

「 葦 」 32 号 発 刊 に よ っ て

奈良県立医科大学附属病院

看護部長 寺 川 佐 知 子

平成12年度は病院にとっては思いもよらないことが起こり、一言で言えば波乱万丈の年であったと言えます。

平成11年4月に当院の電算化を進めるために中核になる電算室が設置され、外来診療部のオーダーリングがスタートして1年が経ちました。そして平成12年11月24日から入院部門（各病棟）と、一部を除いた中央部門のオーダーリングが開始されました。いよいよ病院全体の電算化が本格的に進んで来ており、新時代の到来とも言えます。

このような新しい流れの中で、今夏、突然に思いもよらない不祥事で全国に奈良医大の名前が知れ渡り、附属病院の職員として悲しい思いをしましたが、奮起して名誉を挽回するために努力した1年でもありました。

そして院内の動きとしては安全管理体制が見直されて、医療事故対策委員会やワーキンググループが本格的に活動し、各部門にリスクマネージャー（副部長・各婦長・外来主任）が任命され、看護部も重要な役割を担う事になりました。

また平成13年1月に病院長が榊壽右部長（脳神経外科）に代わられ、積極的にベット稼働率を上げ、いつでも患者様を受け入れられる体制作りが本腰で開始されました。看護部もこのような病院の変化を受け止めて、婦長研修会や主任会、教育委員会やその他の各委員会で年間活動計画に組み込んだ企画になりました。オーダーリングがスムーズに導入できるように研修会で勉強したり、各部所で業務整理したり、クリティカルパスを作成したりなど学びと新しいものを作り出す1年となりました。

一方ではボランティアの皆様の支援を頂きながら、心優しい温かい看護を心掛けました。平成13年末には感染症病棟（10床）が閉鎖され、ベット数（定床）は8870床に戻り、いよいよ春からC棟建設が開始される予定です。遅れていた工事が開始され病院はまた新しく変わります。

21世紀が明け新しい時代の流れに沿って、住民の皆さんのニーズをしっかりとキャッチし応えられる大学附属病院の看護部であれるように努力して頂きたいと思います。

最後にこの1年間、私共、看護部のためにご指導ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。